

島地川ダム

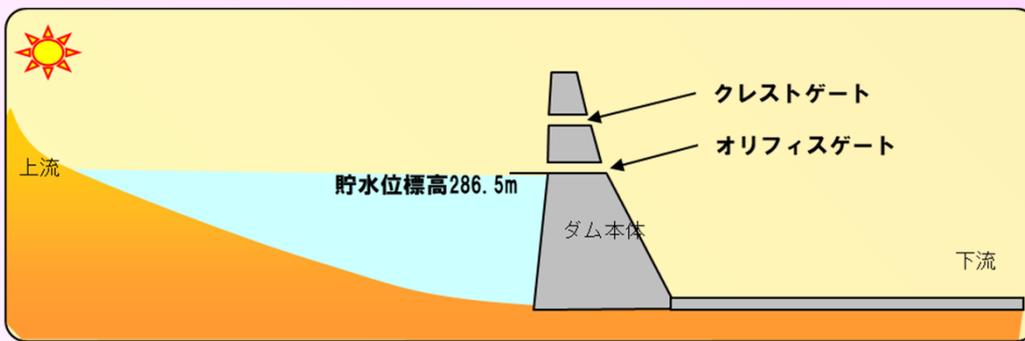
高瀬湖だより



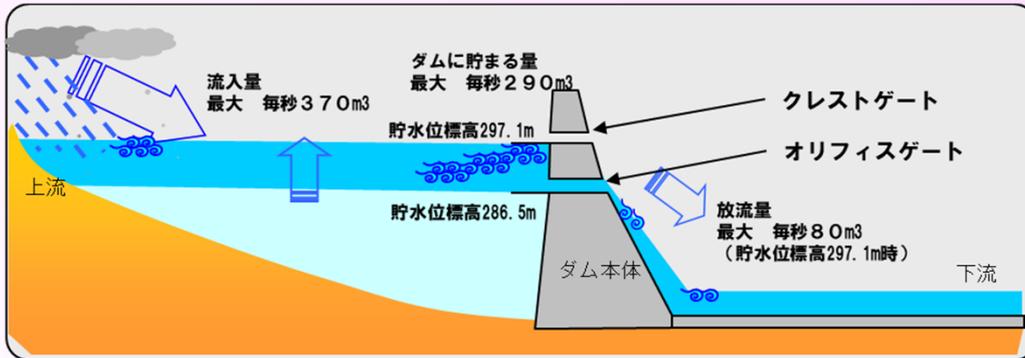
出水期にそなえて！ ～島地川ダムの防災操作～

※佐波川の出水期は
6月1日から10月31日迄

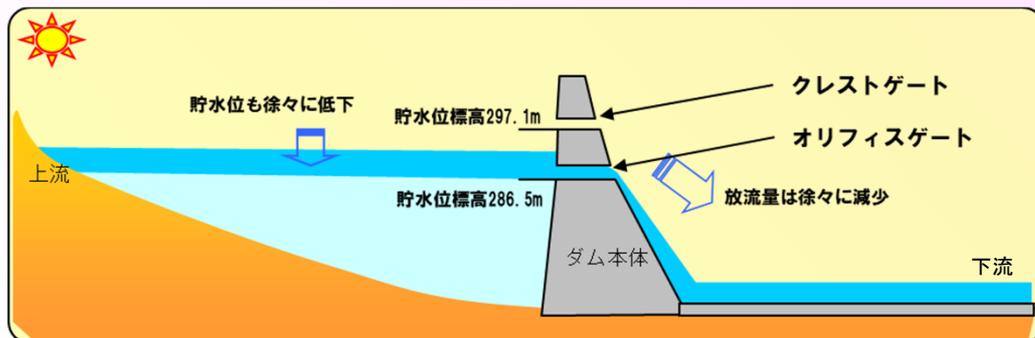
① 普段の島地川ダム



② 大雨が降っている状況 **防災操作を実施**



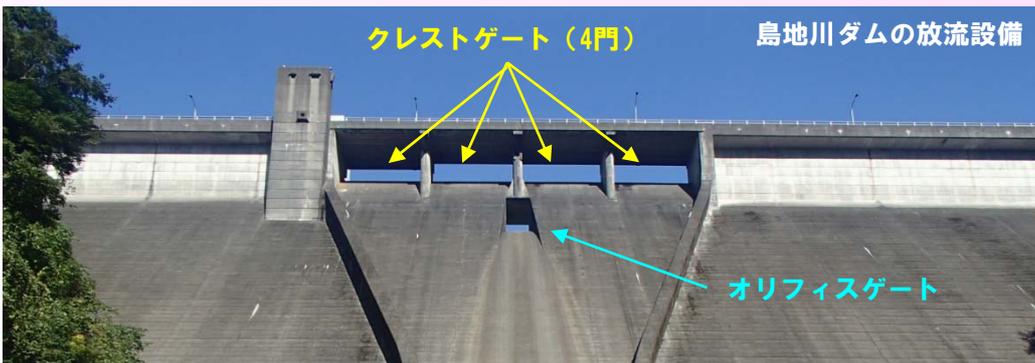
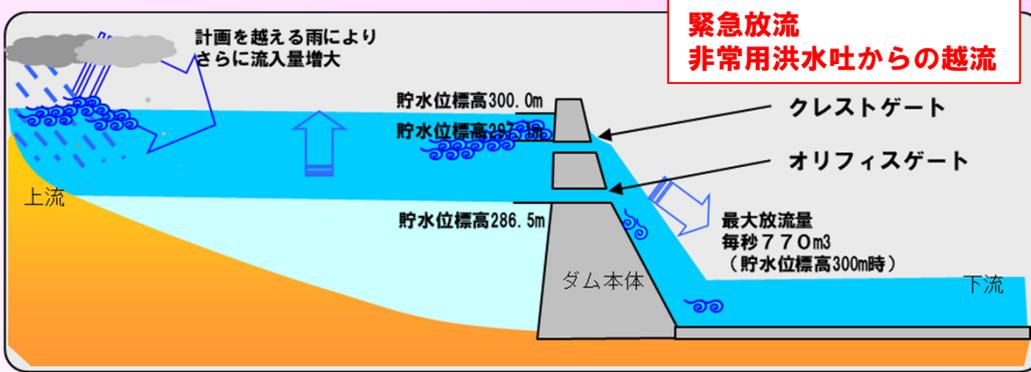
③ 大雨がやんで洪水が終わった状況 (①へ戻る)



島地川ダムは佐波川の支川島地川の上流に作られた多目的ダムです。今回は、出水期前に島地川ダムの操作方法について説明します。島地川ダムには一般的なダムにある開閉式のゲート設備がありません。このため大雨が降ると貯水位の上昇に伴い、ダムにある幅2.5m×高さ3.5mの開口部のオリフィスゲートから自然に越流し放流を開始します。

雨による流入よりダム下流に流れる量が少なかったため、ダムの貯水位は上昇していき、計画では流入量が最大毎秒370m³の時に毎秒290m³の水をダムに貯留しながら毎秒80m³を下流の島地川に放流します。(②の状況) 雨がやんで流入量が減少してもしばらくは貯水位は上昇するため放流量も増えますが、貯水位が低下しはじめると放流量も徐々に減少し、放流は終了します。

④ 更に大雨が降り計画規模を越える洪水の場合



前ページからのつづき
②の状態が継続し、計画規模を越える洪水となるときにはオリフィスゲートに加えてクレストゲート(非常用洪水吐)からの自然越流を行う緊急放流(非常用洪水吐からの越流)に移行します。
この操作に移行する1時間前に周南市等の関係機関に通知、30分前には各警報所からサイレンを鳴らし、島地川ダムではまだこの操作を行ったことはありませんが万一に備えた準備が必要です。

この2つの条件となった場合で、1日最大1m、常時満水位の286.5mから最大7.6mの貯水位を低下させていきます。
放流は、利水放流バルブを使用し、下流の水位状況等を確認しながら最大毎秒7m³の放流を行います。
この事前放流は、緊急放流に移行する時間を遅らせるための措置なので、洪水初期にはオリフィスゲートからの放流開始は遅くなりませんが、放流量が少なくなると言うことではありませんので、事前放流をしているといっても降雨時には通常と同じ警戒をお願いいたします。

トピックス
事前放流の実施

近年、多くのダムで緊急放流がなされていること、ダム下流の河川では多くの氾濫が発生しているため、ダムの容量を越える洪水が予想される前に出来るだけ空けておく事前放流を島地川ダムでも令和2年度より運用しています。

実施する条件としては

- ① 島地川ダム上流域の雨量が予測値で383ミリメートル/24時間を越えるとき。
- ② 計画規模の洪水調節を行った際に洪水調節容量が不足する恐れがあるとき。

◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

今年は例年になく梅雨入りが早かったですね。三月初旬までは佐波川は渇水で、島地川ダム貯水池の水もカラカラだったので、三月末からの降雨により、現在は例年にないくらいオリフィスゲートからの放流が続いています。
今年は梅雨入りが早かった分、降雨が多くなるのか分かりませんが、適切なダム管理に努めていきたいと思っています。
また、佐波川ツイッターでは島地川ダムの防災情報や四季折々の情報を発信していきます。そちらもチェックしてみてくださいね。
(k・s)

高瀬湖だよりに関する問い合わせ先

発行者／国土交通省 中国地方整備局
山口河川国道事務所 島地川ダム管理支所
住所／〒746-0101
山口県周南市大字高瀬257
TEL(0834)67-2878 FAX(0834)67-2427

○ホームページ(山口河川国道事務所)
<http://www.cgr.mlit.go.jp/yamaguchi/>

○Twitterやっています。
佐波川Twitter @mlit_sabagawa
山口河川国道Twitter @mlit_yamaguchi



佐波川Twitter

